

## 中国で進展するデータ駆動型金融と我が国への示唆

京都先端科学大学 李立栄

中国の個人金融分野におけるフィンテックの先進的エコシステムは、単に金流である電子決済基盤の共有のみならず、物流や商流を押さえることで、様々なデジタルフットプリントや取引履歴といったパーソナルデータをもとにリアルタイムで信用評価を行い、そのスコアリングを貸出や様々な非金融サービスにまで活用できることに特徴がある。

本研究では、中国におけるビッグデータの利用環境について言及するとともに、中国での人工知能を活用したデータ分析型融資の広がりを中心に事例を調査し、金融サービスにおいて人工知能がどのように位置付けられているのか、期待されている効果とその成果、個人情報問題への対応、などの事実を明らかにする。特に、データ駆動型金融を用いた与信業務の展開が従来型金融機関の審査業務に比べてパフォーマンスが向上しているのか、金融包摂に効果が表れているのか、をデータに基づいて実証的に明らかにする。

中国を研究対象とするのは、フィンテック分野で同国が世界最先端を行くからである。急速に発展する理由としては、膨大なビッグデータの蓄積、複占プラットフォームによるネットワーク効果、イノベーションが容易な規制環境、従来型金融サービスとの大きな利便性格差、などさまざまな要因が指摘されている。中国と日本では政治体制が大きく異なるものの、情報通信技術が主導する中国のフィンテックは、金融サービスの一つの将来像を示すものとして注目される。とりわけ、個人の信用情報をリアルタイムで更新して活用するデータ駆動型金融について、その課題を含めて将来の可能性について考察することは、わが国の金融サービスの将来像を考察する上でも意義は大きいと考えられる。

本報告では、中国の個人金融分野におけるアリババグループを中心とした金融ビジネスの先進事例を紹介するとともに、このようなデータ駆動型金融の拡大から得られる未来の金融ビジネスの姿や日本の金融ビジネスへの示唆を論じる。

キーワード：中国のフィンテック、データ駆動型金融、金融イノベーション